

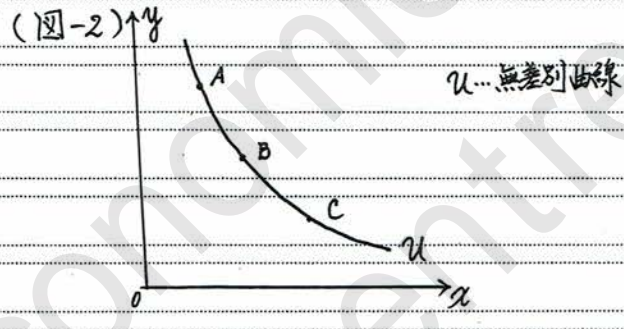
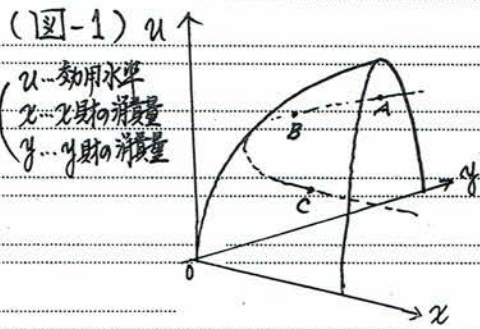
問題

家計の全体的均衡について論述せよ。

(解答欄)

家計の行動として合理的行動を仮定すると、財市場で与えられた財価格と所与に効用最大の消費量を決定することである。

まず、効用水準を表わすものとして、無差別曲線がある。これは、図-1において、 x 財の消費量(x)、 y 財の消費量(y)に対する効用の大きさを高さによって表わし、効用水準(u)と消費量(x, y)の関係を示した効用関数の等高線上(A点、B点、C点)にある点はすべて同じ効用水準であることから無差別となり、それらの点の集合として無差別曲線が導き出される(図-2)



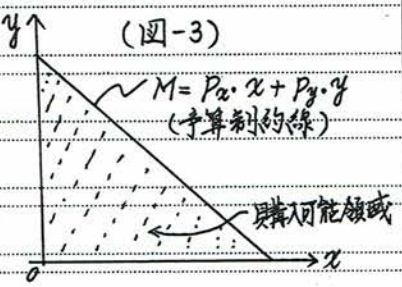
また、図-2からわかるように、無差別曲線は、右上に位置するものほど効用水準が高いと考えられる。さらに、1つの財の量が増加した場合、他の財が減らなければならず、原点に対して凸型の形状になるほか、無差別曲線は交わらない、右下がりになるという特徴がある。

家計の消費量の決定に関して制約条件になるのが予算である。

図-3において、 x 財の価格を P_x 、 y 財の価格を P_y とすると予算制約式は、

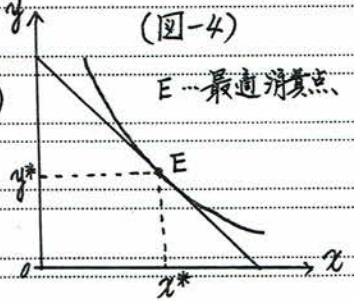
$$M(\text{予算}) = P_x \cdot x + P_y \cdot y$$

と表わされ、予算制約線はこの条件を示す軌跡であり、価格比 $(\frac{P_x}{P_y})$ の傾きを持つ関数となる。



よって、効用最大の均衡条件は、購入可能領域内において最大限に無差別曲線が原点から遠い位置である点(E点:最適消費点)で実現される。

$$-\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{P_x}{P_y} \quad \dots (\text{均衡式})$$



以上より、図-4において効用最大の消費量は x^* 、 y^* で決定される。

※採点